

on-  
line

# 令和4年度 第11回 応用動物科学セミナー

## 次世代型アルツハイマー病 モデルマウスの開発と それらを駆使した研究

橋本 翔子 博士

理化学研究所 脳神経科学研究センター 神経老化制御研究チーム 研究員

使用言語・Language:日本語・Japanese

疾患の分子機序解明や創薬研究にはモデル動物の活用が必要です。アルツハイマー病研究も例外ではなく、多くのモデル動物が作製されてきました。私たちはこれまで、病態を忠実に再現したモデル、アルツハイマー関連研究に適した各種モデルを追求し開発してきましたので、それらを紹介します。

● 12月21日 (水) 15:00 ~ 16:30

Zoom で開催

要 事前登録

登録はこちら



● 本セミナーは、AMED iD3キャタリストユニットが主催する「第6回Top Runners in TRS」として行われるものですが、担当教員の厚意により本専攻の学生にも公開するものです。動物科学のフロンティア (修士課程) / 動物科学フロンティア (博士課程) の講義1回分としても認定されます。履修者は、セミナーの内容についてレポートを作成の上 (様式は自由) セミナー終了後3週間以内に下記担当教員まで提出すること。

● 問い合わせ / レポート提出先：  
獣医学専攻 実験動物学研究室 角田 茂 准教授

☎ 03-5841-5037

✉ a-skakuta@g.ecc.u-tokyo.ac.jp



出典：定 延子「珍玩鼠育紳」(1787)  
国立国会図書館ウェブサイト  
(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2540511>)